

2023 年度

教職課程

自己点検・評価報告書

2024 年 3 月

城西国際大学

城西国際大学 教職課程認定学部・学科一覧

学部・学科・コース		免許状の種類・教科			
		幼稚園教諭 一種	中学校教諭 一種	高等学校教諭 一種	養護教諭 一種
経営情報学部	総合経営学科		社会	公民	
			保健体育	保健体育	
国際人文学部	国際文化学科		国語	国語	
			社会	地理歴史	
	国際交流学科		英語	英語	
福祉総合学部	福祉総合学科 子ども福祉コース	幼稚園			
看護学部	看護学科				養護

## 大学としての全体評価

城西国際大学は、1992年の開学以来、建学の精神である「学問による人間形成」及び教育理念として「国際社会で生きる人間としての人格形成」を掲げ、幅広い国際的視野と高度な専門的知識・技能を兼ね備えた教員の育成を目標としている。各学部・学科での専門教育と海外留学やインターンシップ、各種実習、地域・社会貢献、高度教養教育等を通して、国際的かつ学際的な視点を涵養し、広く社会の諸分野でリーダーシップを発揮できる教員を輩出してきた。

現在では、経営情報学部、国際人文学部、福祉総合学部、看護学部で教職課程を設けており、それぞれの学部での学びと関連した多彩な教職免許を取得できるようになっている。本学の教職支援体制の一環として、模擬授業や情報収集を実施できる教職支援室の設置や、教員採用試験対策講座及び勉強会の実施、教員採用試験の模擬試験の導入、電子黒板の設置などがあげられる。また、ICT教育の普及に伴い、2024年度からは電子教科書の導入を検討しており、より教育現場に近い学びの提供を図っている。

今後も学生が主体的に自己研鑽し、教育現場で広く活躍できる人材を輩出できるよう、教職支援体制の整備を進めて参りたい。

城西国際大学

教職課程運営委員会委員長（教務担当部長）

亀山 浩文

## 目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	3
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	3
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価	10
IV	現況基礎データ一覧	11

### I 教職課程の現況及び特色

#### 1 現況

(1) 大学名：城西国際大学

(2) 所在地：千葉東金キャンパス（千葉県東金市求名1番地）

東京紀尾井町キャンパス（東京都千代田区紀尾井町3-26）

(3) 学生数及び教員数（2023年5月1日現在）

学生数：経営情報学部 教職課程履修 143名／学部全体 1555名

国際人文学部 教職課程履修 61名／学部全体 746名

福祉総合学部 教職課程履修 50名／学部全体 589名

看護学部 教職課程履修 33名／学部全体 428名

教員数：経営情報学部 教職課程担当（教職・教科とも）5名

／該当学部全体 82名

国際人文学部 教職課程担当（教職・教科とも）3名

／該当学部全体 55名

福祉総合学部 教職課程担当（教職・教科とも）4名

／該当学部全体 75 名

看護学部 教職課程担当（教職・教科とも）2 名

／該当学部全体 49 名

## 2 特色

2023 年度は 4 学年 287 名の学生が教職課程を履修した。その内訳は中学校社会科教員免許課程 24 名、高校公民科教員免許課程 18 名、中学校・高校保健体育科教員免許課程 108 名、中学校・高校国語科教員免許課程 14 名、高校地理歴史科教員免許課程 6 名、中学校・高校英語科教員免許課程 30 名、幼稚園教員免許課程 50 名、養護教員免許課程 33 名となっている。

設備面では、教職支援室を設置し、教員採用試験の各自治体の過去問題集、設置教科の教科書、教職雑誌を所蔵し、多くの学生の情報提供や共有の場となっている。また、教員採用試験の受験を希望する学生を対象に、外部講師を招聘し、本学教職課程担当教員と連携し「教員採用試験対策講座」を開講している。開講内容は一次試験対策として、教職教養、一般教養、専門教養、小論文指導、集団面接対策等をおこなっている。一次試験の合格者を対象に二次試験対策として模擬授業、場面指導、保健体育の実技試験対策、個別面接対策等を受験教科別におこなっている。また、2023 年度からは教員採用試験の模擬試験を導入し、教員採用試験の合格者数の増加に向けた取組をおこなっている。

地域との連携として、東金市教育委員会と連携し、学校の現場を体験することが可能となる学習チューター制度の参加を学生に促している。この学習チューターは、小学校や中学校に長期休業中に出向き、授業補助、部活動補助、事務補助等の活動をおこなっている。参加学生は、教職への士気が高まり、より一層、教員を目指すようになる。千葉県・千葉市が実施している「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加を学生に促し、千葉県・千葉市の学校での教員を目指す学生を支援している。

### 各学部の教職課程の理念等

#### 2-1 経営情報学部

本学部は、グローバルとローカルの統一的な視点を持ち、「考える力」「気づく力」「創り出す力」と実行力豊かな「マネジメント力」を備えた教員を目指している。国際的な視点を持ち、ビジネス領域に加え、公的機関や非営利組織、スポーツ・健康分野、消費生活、情報通信という様々なマネジメントを学ぶことで、幅広い視野と知識、管理能力を身につけた教員を養成する。

#### 2-2 国際人文学部

本学部は、グローバル化社会に対応すべく、言語力とグローバル・センスを有し、国際社

会で強いリーダーシップを発揮できる教員の養成を目指している。国際文化学科では国際的な視野と語学力、異文化理解力を有し、柔軟な発想と行動力を備えた教員を養成する。国際交流学科では実践的な語学力と国際交流のための知識とコミュニケーション能力を身につけた教員を養成する。

### 2-3 福祉総合学部

本学部は、国際大学において、世界共通の福祉の学びをとおして、異文化理解と受容力を習得し、グローバル化社会を担う教員の養成を目指している。社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、保育士などの国家資格で求められる福祉知識に加えて、多様な社会問題を主体的に考察し、さまざまな立場から現代社会を教授することができる教員を養成している。

### 2-4 看護学部

本学部は、児童生徒の心身の発達と社会との関係を理解し、健康を守り、発達を促進し、児童生徒が健やかな状態で学習活動を展開できるような支援者としての養護教員の養成を目指している。健康と教育に関する専門的な知識と技術に加えて、薬学の知識、福祉の知識を有し、コミュニケーションによる対人関係構築能力を基盤とした思いやりのある養護教員を養成する。

## II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

### 基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

#### 基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

##### 〔現状説明〕

本学では、教職課程を設置する学部の教員で構成される教職課程運営委員会を組織している。年間4回の委員会を開催し、各課程のカリキュラムの確認や見直し、介護等体験や教育実習に参加する学生の把握、文科省からの通達、法令の改定等の各種情報共有を図っている（資料1-1-1）。担当部署は教務部教務課である。

また、2017年度から『JIU教職課程年報』を作成し、本学で教職課程を担当する教員による研究論文や教育実践、教育実習に参加した学生の報告などを掲載し、教育実習校を中心に配布している。教員を目指す学生にとって参考となる有益な情報が記載されている（資料1-1-2）。

##### 〔長所・特色〕

上記の教職課程運営委員会を定期的で開催し、教員間の情報共有が密になされていること、加えてICTも活用（具体的にはTeams）により、法令改定や通達、

学生に有益な体験プログラム、公立・私立学校の採用情報などの情報共有を委員や主管教務部教務課ができる体制を整えている。

このように教職課程の運営においては、教務部教務課も履修学生の学生支援などに関わっており、教職協働を実現している。

### 〔取り組み上の課題〕

教職課程に関わる教職員は、年度はじめの運営委員会で教職課程の目的・目標の再確認と共有をおこなっている。一方で、本学が目指す教師像を十分に学生に周知できているのか、という課題もあることから、各学年で年度はじめに実施する「教職課程オリエンテーション」において、教員の魅力ややりがいについて担当教員からのコメントだけでなく、今後卒業生のコメントを取り入れたオリエンテーションにするなどの工夫を取り入れて、教員を目指す学生を増やすことができるよう、対応を検討したい。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-1-1：2023年度 委員会活動計画書・報告書
- ・資料1-1-2：[教職課程年報（「情報公開」ページ内）](#)

## 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

### 〔現状説明〕

本学は教職課程に関する組織として教職課程運営委員会を設置しており、研究者教員・実務家教員が教育面を担い、教務部教務課が実務を担うという分担した協働的な運営をおこなっている。

先の述べたように教員採用試験の自治体別の過去問題集や設置教科の教科書、教職雑誌を整備した教職支援室を設置し、学生が自主的に学習できる環境を整えている（資料1-2-1）。

本学のポータルシステムである「JIUポータル」で学生へ連絡ができるようになっており、教職課程に関する連絡等もJIUポータルを通じてスムーズにおこなっている。授業評価についてもJIUポータルを通じておこなっており、学生が情報収集しやすい環境になっている。

### 〔長所・特色〕

教職員が協働した運営体制を整えていることから、教員と職員それぞれの役割を担いつつ、教職課程運営委員会での課題検討・情報共有を通してコミュニケーションを図り本学教職課程の運営において不備がないようにしている。

また、ICT（Teams、ポータルシステム）を積極的に活用して連絡体制を整えており、教員及び学生へスムーズな連絡ができるようになっている。

#### 〔取り組み上の課題〕

各クォーターで実施している授業評価アンケートが担当者個人の授業改善に留まっており、今後は教職課程の理念や目指す教師像を共有し、より実質的な授業改善、及び教職課程のカリキュラム改編に向けた組織的取組が求められている。加えて、教職支援室は「教員採用試験対策講座」の使用時に偏りが見られ、年間を通した利用の状況が芳しくない。この改善のために、学生が利用しやすくなるよう、または利用しなければならない仕掛けづくりを含めた運営体制を工夫していきたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料1-2-1：[教職支援室](#)

## 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

### 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

#### 〔現状説明〕

大学案内（冊子）やホームページで本学の教職課程の情報を発信しており、教員免許状の取得が目指せる大学であることを積極的にアピールしている。

入学者については、新入生オリエンテーションで教職課程に関心のある学生に対して「教職課程オリエンテーション」を実施して教員魅力発信に努めている。加えて、2年生～4年生の在学生に対しても年次毎「教職課程オリエンテーション」を実施して学生のモチベーション維持に努め、併せて事務手続きの漏れに努めている。教職課程履修者には『教職課程履修要綱』（pdf）を大学ホームページの教職課程専用ページに掲載し、いつでも閲覧できるようにし、教員も職員も教職課程の履修方法などを指導ができるようにしている（資料2-1-1）。

また、履修カルテを電子化しており、学生の学習状況をリアルタイムで確認した履修指導ができている。

#### 〔長所・特色〕

学部別の新入生オリエンテーション時に教職課程の履修について対面での紹介をし、少しでも関心のある学生が視聴できるオンデマンド配信の「教職課程オリエンテーション」につなげている。その後、履修登録などについて「教職論」において全体的な説明、4年間の免許取得までのアウトラインを示した指導をおこなっている。

ポータルシステムで資格登録が可能となり履修カルテも電子化している。履修カルテと科目を紐づけることで、教員も学生の学習状況を把握することができ、履修指導にもつなげていくことができるようになった。

#### 〔取り組み上の課題〕

教員免許の取得を目指す学生数を増やすことができるよう、新入生オリエンテーション時の履修説明、教員の魅力、学生の履修しやすい教職科目の時間割配置など総合的な工夫を不断にしていきたい。

他方、2年次や3年時に教職課程の履修を取り止める学生も一定数存在することから、学生の取り止める内実に向き合った指導を充実させ、意欲低下等により途中で履修を取りやめるようなことがないような適切な履修指導の工夫の検討をしたい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料2-1-1：[2022年度 教職課程履修要綱](#)

## 基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

### 〔現状説明〕

教務部教務課で各自治体の教育委員会や私立学校等から届いた教員採用（募集）に関する文書の集約、Teamsでの教員への情報共有、必要に応じて教務部教務課からの学生への個別連絡や掲示スペースでの告知おこなって、学生へ教員採用（募集）情報の提供を積極的にしている。

「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」を教職支援室で実施し、特別講師も招聘して志願書類の添削、提出小論文の添削、面接指導、筆記試験（教職教養・一般教養・専門教養）をおこなった（資料 2-2-1）。これらの実施形態は、対面授業とオンライン（同時双方向型）授業を組み合わせ、学生の受講に関する通学負担を軽減させるなど学生の利便性を考慮しながら実施している。

また、2023年度からより教員採用試験に対して具体的な意識を抱かせるために、3年次の各教科教育法の履修者全員を対象（養護教諭課程は希望者）として教員採用模擬試験（希望教科別）を実施した。その結果を学生及び指導教員にフィードバックをおこない、4年次の教員採用試験への足掛かりとしている。この模擬試験は学生意識向上にもつながるのではないかと期待している。

### 〔長所・特色〕

「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」は全学部の希望学生を対象としていて、教員を目指す学生が集まって受講することで、学生のモチベーションの向上が見られる。

また、2023年度から実施した教員採用模擬試験は、4年次の教員採用試験の合格者増の期待ができ、何よりも教員を目指す学生の将来の見通しが可視化が期待される。

### 〔取り組み上の課題〕

教員採用（募集）情報の提供について、情報収集及び集約にこれまで以上に努め、担当教員及び学生への情報提供を迅速にしていきたい。今後は学生個々のニーズに寄り添った情報提供、卒業生の教員採用試験受験希望者への対応など、丁寧かつ裾野を広げた教職キャリアの支援をすべく、効果的な「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」の実施に向けた内容や時期の見直し、公私立に採用され活躍している卒業生を紹介するなど合格者増に向けた総合的な工夫と情報発信を検討していく。

「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」の参加は任意のため、時期によっては参加者数が少ない場合がある。学生をより増やせるよう、内容や時期、過去の成果などをアピールしていきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2 - 2 - 1 : [教員採用試験対策講座](#)

## 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

### 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

#### 〔現状説明〕

教職に係わる授業科目は「教育の基礎的理解に関する科目等」（養護教諭課程は「養護に関する科目」）、「教科及び教科の指導法に関する科目」（幼稚園教諭課程は「領域及び保育内容の指導法に関する科目」、養護教諭課程は「養護に関する科目」）、「大学が独自に設定する科目」、および「文部科学省令に定める科目」からなり、教職課程のある学部・学科に配置している（資料3-1-1）。

授業内容や評価方法はシラバスに明示しており、教職課程の科目を履修にあたって身につけるべき内容を提示している（資料3-1-2）。

教職課程運営委員会や、学生による授業アンケート、教員による授業評価アンケートなどを通じて、適宜授業内容の改善を図っている。

#### 〔長所・特色〕

『教職課程履修要綱』に単位の修得及び履修方法を明示しており、適切な教職課程カリキュラムを運用できるようにしている。また、同要綱で教育（養護）実習の受講要件として、ふさわしい学業成績（3年次終了時点でGPA2.00以上）を有していることなども明示しており、適切な人材を教育現場に輩出できるよう学生を指導している。

#### 〔取り組み上の課題〕

教育（養護）実習にGPA2.00以上を求めていることから、それをクリアできるための各科目に対応した学生指導（履修指導）が求められる。学生の履修状況を定期的に確認し、適切なタイミングで指導ができるようにしていく。

教員採用試験受験の早期化（3年次受験や4年次5月受験）に伴う対策として、「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」に3年生の参加も推奨している。一方で、その早期化の周知の工夫が課題とある。また、2024年度実施の教員採用試験から各自治体の実施時期が広範に散らばり、重複受験がこれまで以上に可能になっていることから、受験指導の長期化、個別化が進んでいるので今後検討したい。

#### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料3-1-1：[学生便覧](#)
- ・資料3-1-2：[シラバス検索](#)

## 基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

### 〔現状説明〕

実践的指導力の育成として、先述の通り、本学では東金市教育委員会と連携し、学習チューター制度を導入している（資料 3-2-1）。

また、千葉県・千葉市が実施している研修「ちば！教職たまごプロジェクト」への参加を学生に促し、千葉県・千葉市の学校での教員を目指す学生を支援している。

介護等体験では主に東金市内にある千葉県立東金特別支援学校の協力をいただいて実施している（資料 3-2-2）。

### 〔長所・特色〕

本学では地域連携推進センターを設置しており、全学的に地域と連携した取り組みに力を入れている。教職課程においても先述の通り地域と連携した取組をおこなっており、県外出身の学生が千葉県内の公私立の教員として採用されるなど、地域に根差した人材育成に貢献している。

### 〔取り組み上の課題〕

早期体験で意欲の向上を見込んで実践的指導力を育成できる環境を整えるようにしている。各種プログラムに参加する学生数が徐々に増えている。しかし、年度によってばらつきがあり、芳しくない年度もあることから、学生に各種プログラムの魅力、プログラムによっては教員採用試験のインセンティブが付与されるので、これらのことを周知するなどのアピールをしていく必要に迫られている。

### <根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1：[教職インターンシップ・学習チューター制度](#)
- ・資料 3-2-2：介護等体験ガイダンス資料

### Ⅲ 総合評価

本学は1992年の開学初年度に課程認定を受け教職課程を開設するなど、教員養成に力を入れてきた。入学当初から公立学校の教員を目指す学生も多く、在学中の努力の積み重ねにより、千葉県やその他都県の教員採用試験の合格者を輩出している。近年の特徴は4年次での合格者が増えていること、何より卒業生の合格者が増えていることである。教職課程は進路選択のひとつになっており、重要性は増しており、学生にとっても有意義なものであると考える。

全体として、教職課程は少子化やICT教育の普及等、社会構造の変化により、教員に求められる情報活用能力、ICT活用能力といった資質・能力の育成に対応した学びを提供する工夫が各教員でなされている。その一方で、教職課程の途中取り止めの学生への丁寧な指導や履修指導の細かさ、各種プログラムへの参加、「教員採用試験対策講座」及び「勉強会」への参加者の低迷などに課題がある。今後は教職課程を不断に点検・評価し、自己点検につなげ学生の卒業後の進路を有意に選択できる教育環境改善につなげていくことが求められよう。

#### IV 現況基礎データ一覧

大学名称	学校法人城西大学 城西国際大学				
学部・学科名	国際人文学部	国際文化学科			
		国際交流学科			
	観光学部	観光学科			
	経営情報学部	総合経営学部			
	メディア学部	メディア情報学科			
	薬学部	医療薬学科			
	福祉総合学部	福祉総合学科			
		理学療法学科			
看護学部	看護学科				
1.卒業生数、教員免許状取得者数、教員就職者数（2022年度）					
①	卒業生数	1,218			
②	①のうち、免許状取得状況	54			
③	①のうち、就職者数	54			
④	①のうち、教職に就いた者の数	20			
⑤	③のうち、正規採用者数	10			
⑥	③のうち、臨時任用者数	10			
2.教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	91	77	227	60	7